2027年６月期　第１四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年11月13日

上場会社名　　株式会社かんなん丸　　上場取引所　東
コード番号　　7585　　ＵＲＬ　http://www.kannanmaru.co.jp
代表者　　（役職名）代表取締役社長　　（氏名）野々村　孝志
問合せ先責任者　（役職名）取締役管理部長　　（氏名）宮永　一彦　　ＴＥＬ　048-815-6699

配当支払開始予定日　　－
決算補足説明資料作成の有無：無
決算説明会開催の有無　　：無

（百万円未満切捨て）

１．2027年６月期第１四半期の業績（2026年７月１日～2026年９月30日）

（１）経営成績（累計）　　（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年６月期第１四半期	454	△4.0	△23	－	△11	－	△13	－
2026年６月期第１四半期	473	1.2	△27	－	△25	－	△26	－

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年６月期第１四半期	△3.50	－
2026年６月期第１四半期	△7.05	－

（２）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年６月期第１四半期	1,326	223	16.9
2026年６月期	1,369	237	17.3

（参考）自己資本　　2027年６月期第１四半期　　223百万円　　2026年６月期　　237百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年６月期	－	0.00	－	0.00	0.00
2027年６月期	－				
2027年６月期（予想）		－	－	－	－

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無
2027年６月期の配当予想につきましては、現時点では未定としております。

３．2027年６月期の業績予想（2026年７月１日～2027年６月30日）

（%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第２四半期（累計）	987	2.2	△7	－	△9	－	△11	－	△2.89
通期	2,000	6.3	11	－	7	－	3	－	0.86

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※　注記事項

（１）四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（２）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：無
②　①以外の会計方針の変更　　：無
③　会計上の見積りの変更　　：無
④　修正再表示　　：無

（３）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2027年６月期１Ｑ	4,351,308株	2026年６月期	4,351,308株
②　期末自己株式数	2027年６月期１Ｑ	539,832株	2026年６月期	539,832株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2027年６月期１Ｑ	3,811,476株	2026年６月期１Ｑ	3,811,476株

※　添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料Ｐ２「１．当四半期決算に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 2
（３）継続企業の前提に関する重要事象等 …… 3
（４）業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 3
２．四半期財務諸表及び主な注記 …… 4
（１）四半期貸借対照表 …… 4
（２）四半期損益計算書 …… 5
（３）四半期財務諸表に関する注記事項 …… 6
（継続企業の前提に関する注記） …… 6
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 6
（四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記） …… 6
（セグメント情報等の注記） …… 7

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第１四半期累計期間における国内経済は、物価上昇や生活防衛意識の高まりにより、消費環境は依然として厳しい状況が続いております。外食産業におきましても、仕入価格の高騰や最低賃金の引き上げに伴う人件費の上昇が継続しており、収益環境は一段と厳しさを増しております。

このような環境下、当社は継続するコスト増加への対応を最重要課題とし、店舗運営の効率化に取り組んでまいりました。特に人件費の増加に対しては、昨年度から適正なシフト管理による人員配置の最適化が進み、限られた人数で店舗を運営できる体制が全社的に浸透しております。

しかし当第１四半期の業績は、こうしたコストコントロールの成果は表れたものの、想定した売上高に届かず厳しい結果となりました。価格改定等により客単価は前年を微増で推移した一方、最大の課題である客数の確保に苦戦いたしました。これは前年に実施した業態転換による集客の押し上げ効果が一巡したことに加え、一部の既存店舗においても競合激化により来店客数が前年に届かなかったことが要因であります。

今後は、向上した店舗運営の効率を土台に、最大の課題である「客数の拡大」に注力いたします。具体的には、ご来店からご退店までの一連の行動において接客品質および体験価値の向上を図るため、新たに動画マニュアルを積極的に活用し、全社的なお客様満足度の底上げを推進いたします。あわせて、Google等での良好な口コミ（高評価）の獲得、SNSを通じた情報発信の強化、店頭販促の充実等に注力し、新規顧客の獲得とリピーターの増加に努めてまいります。

また、食材価格の高止まりや継続するコスト増に対しては、当社の主力である「じんべえ太郎」業態を中心に、従業員の多能工化を見据えたメニューの組み立て、調達方法の改善、店舗オペレーションの抜本的な見直しを実施し、さらなる収益構造の強化に取り組みます。加えて、店舗競争力の最大化を目指した既存店のテコ入れ（業態転換）も推進しており、2026年９月末に営業を終了した「庄や 鳩ヶ谷店」を「じんべえ太郎 鳩ヶ谷店」へ業態変更し、同年11月中旬にリニューアルオープンする予定であります。

当第１四半期会計期間末の店舗数は、大衆すし酒場「じんべえ太郎」13店舗、大衆割烹「庄や」10店舗、「日本海庄や」２店舗、カラオケルーム「kobanちゃん」１店舗、Italian Kitchen「ＶＡＮＳＡＮ」４店舗、女性専用ＡＩパーソナルジム「ＦＵＲＤＩ」２店舗の合計32店舗となっております。

以上の結果、当第１四半期累計期間の業績は売上高454,903千円（前年同期比4.0％減）、売上総利益は315,354千円（前年同期比3.8％減）、販売費及び一般管理費については339,282千円（前年同期比4.6％減）となり、営業損失は23,928千円（前年同期は営業損失27,914千円）となりました。

経常損失につきましては11,588千円（前年同期は経常損失25,848千円）、税引前四半期純損失12,101千円（前年同期は税引前四半期純損失25,851千円）となり、四半期純損失13,351千円（前年同期は四半期純損失26,861千円）となりました。

セグメントの業績については、次のとおりであります。

	料理飲食事業	その他
売上高 （前年同期比）	444,461千円 （4.2％減）	10,442千円 （7.3％増）
セグメント利益又は損失（△） （前年同期比）	28,102千円 （29.7％増）	△581千円 （－）

（２）財政状態に関する説明

（資産）

当第１四半期会計期間末における流動資産は549,368千円となり、前事業年度末に比べて1,629千円の減少となりました。これは主に、現金及び預金が11,353千円減少したことによるものであります。

また、固定資産は776,691千円となり、前事業年度末に比べて41,497千円の減少となりました。これは主に、建物等の有形固定資産が減価償却等により8,712千円減少したことによるものであります。

（負債）

当第１四半期会計期間末における流動負債は408,970千円となり、前事業年度末に比べて7,528千円の減少となりました。これは主に、未払法人税等の減少3,547千円によるものであります。

また、固定負債は693,572千円となり、前事業年度末に比べて21,728千円の減少となりました。これは主に、長期借入金の減少21,648千円によるものであります。

（純資産）

当第１四半期会計期間末における純資産は223,517千円となり、前事業年度末に比べて13,870千円の減少となりました。これは主に、四半期純損失の計上の結果、利益剰余金が13,351千円減少したことによるものであります。

（３）継続企業の前提に関する重要事象等

当第１四半期累計期間におきましては、適正な人員配置など店舗運営の効率化による収益体質の強化に着実な進展が見られたものの、来店客数の伸び悩み等により想定した売上高の確保には至らず、営業損失を計上する結果となりました。これにより、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象または状況が継続しております。

このような状況を解消するため、当社は事業の収益改善と財務の安定化を目的として、以下の施策を継続的に実施しております。

事業面（収益改善）につきましては、既存店のテコ入れを進めるとともに、自社ブランドである「じんべえ太郎」においては、適正な原価管理に向けたメニュー構成の見直しやオペレーションの効率化を図り、集客力の向上とコスト管理の徹底に努めております。また、ＦＣ業態等につきましても、業態ポテンシャルの最大化を図るべく、接客サービスなど店舗運営の基本を徹底し、収益力向上に向けた取り組みを継続しております。

財務面につきましては、向上しつつある店舗運営の効率を基盤とした収益力の改善に注力し、当面の運転資金を確実に確保するとともに、適切なキャッシュ水準の維持に努めております。

当第１四半期末現在において、当社は現金及び預金残高454,747千円、純資産残高223,517千円を有しており、一定の財務基盤を維持しております。今後も、これらを基盤として上記施策を着実に実行していくことにより、継続企業の前提に関する重要な不確実性は認められないものと判断しております。

（４）業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年８月13日に公表いたしました第２四半期累計期間及び通期の業績予想につきましては、現在のところ変更はありません。

２．四半期財務諸表及び主な注記

（１）四半期貸借対照表

（単位：千円）

	前事業年度 （2026年６月30日）	当第１四半期会計期間 （2026年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	466,100	454,747
売掛金	46,734	57,804
原材料	16,392	15,498
前払費用	18,141	17,947
その他	3,628	3,371
流動資産合計	550,998	549,368
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	310,806	302,093
土地	213,034	213,034
その他（純額）	30,498	30,700
有形固定資産合計	554,338	545,827
無形固定資産	13,942	13,872
投資その他の資産		
差入保証金	192,188	192,188
その他	57,720	24,804
投資その他の資産合計	249,908	216,992
固定資産合計	818,189	776,691
資産合計	1,369,187	1,326,060
負債の部		
流動負債		
買掛金	46,654	44,505
短期借入金	150,000	150,000
１年内返済予定の長期借入金	86,592	86,592
未払金	63,133	66,487
未払法人税等	4,570	1,022
賞与引当金	1,200	4,800
その他	64,350	55,563
流動負債合計	416,499	408,970
固定負債		
長期借入金	587,754	566,106
リース債務	2,768	2,576
資産除去債務	109,627	109,994
繰延税金負債	15,151	14,895
固定負債合計	715,301	693,572
負債合計	1,131,800	1,102,543
純資産の部		
株主資本		
資本金	50,000	50,000
資本剰余金	313,600	313,600
利益剰余金	490,834	477,482
自己株式	△622,168	△622,168
株主資本合計	232,265	218,914
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	5,121	4,603
評価・換算差額等合計	5,121	4,603
純資産合計	237,387	223,517
負債純資産合計	1,369,187	1,326,060

（２）四半期損益計算書

（単位：千円）

	前第１四半期累計期間 （自　2025年７月１日 至　2025年９月30日）	当第１四半期累計期間 （自　2026年７月１日 至　2026年９月30日）
売上高	473,615	454,903
売上原価	145,720	139,549
売上総利益	327,894	315,354
販売費及び一般管理費	355,809	339,282
営業損失（△）	△27,914	△23,928
営業外収益		
受取利息	304	254
貸倒引当金戻入額	2,769	－
保険解約返戻金	－	14,766
その他	322	137
営業外収益合計	3,396	15,157
営業外費用		
支払利息	1,324	1,855
その他	4	961
営業外費用合計	1,329	2,817
経常損失（△）	△25,848	△11,588
特別損失		
店舗閉鎖損失	2	512
特別損失合計	2	512
税引前四半期純損失（△）	△25,851	△12,101
法人税、住民税及び事業税	1,272	1,224
法人税等調整額	△262	25
法人税等合計	1,010	1,250
四半期純損失（△）	△26,861	△13,351

（３）四半期財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

当第１四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第１四半期累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第１四半期累計期間 （自　2025年７月１日 至　2025年９月30日）	当第１四半期累計期間 （自　2026年７月１日 至　2026年９月30日）
減価償却費	15,130千円	11,690千円

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

Ⅰ．前第１四半期累計期間（自　2025年７月１日　至　2025年９月30日）

報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント		その他（注）１	合計	調整額（注）２	四半期財務諸表計上額（注）３
	料理飲食事業	計				
売上高						
外部顧客への売上高	463,886	463,886	9,728	473,615	－	473,615
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－	－
計	463,886	463,886	9,728	473,615	－	473,615
セグメント利益又は損失（△）	21,669	21,669	△3,454	18,215	△46,129	△27,914

（注）１．「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「ＦＵＲＤＩ」事業を含んでおります。

２．調整額は、以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失（△）の調整額△46,129千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る一般管理費であります。

３．セグメント利益又は損失（△）は、四半期財務諸表の営業損失と調整を行っております。

Ⅱ．当第１四半期累計期間（自　2026年７月１日　至　2026年９月30日）

報告セグメントごとの売上高、利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント		その他（注）１	合計	調整額（注）２	四半期財務諸表計上額（注）３
	料理飲食事業	計				
売上高						
外部顧客への売上高	444,461	444,461	10,442	454,903	－	454,903
セグメント間の内部売上高又は振替高	－	－	－	－	－	－
計	444,461	444,461	10,442	454,903	－	454,903
セグメント利益又は損失（△）	28,102	28,102	△581	27,521	△51,449	△23,928

（注）１．「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、「ＦＵＲＤＩ」事業を含んでおります。

２．調整額は、以下のとおりであります。

セグメント利益又は損失（△）の調整額△51,449千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る一般管理費であります。

３．セグメント利益又は損失（△）は、四半期財務諸表の営業損失と調整を行っております。